

↓

c. 句構造: [NP(=x) [V NP(=y)]] (cf. Baker1988, linking rule)

(4) 動作者主語(LSL に合致)

a. 张三 切 牛肉。
Zhangsan cut beef
‘太郎は牛肉を切る。’

b. *牛肉 切 张三。
beef cut Zhangsan
‘牛肉は張三を切る。’

(5) 道具主語(LSL に違反)

a. ?这把 菜刀 切 牛肉。
this-CL knife cut beef
‘この包丁は牛肉を切る。’

b. 这把 菜刀 切 牛肉, 那把 菜刀 切 猪肉。
this-CL knife cut beef that-CL knife cut pork
‘この包丁は牛肉を切る(もので)、あの包丁は豚肉を切る(ものだ)。’

(6) 場所主語(LSL に違反)

a. ?这个 房间 学 外语。
this-CL room learn foreign language
‘この部屋は外国語を学ぶ。’

b. 这个 房间 学 外语, 那个 房间 弹 钢琴。
this-CL room learn foreign language that-CL room play piano
‘この部屋は外国語を学ぶ(ところで)、あの部屋はピアノを弾く(ところだ)。’

(7) 疑問: いわゆる非動作者主語文は何を表す構文であろうか。

- a. 非動作者名詞句が動作動詞文の主語の位置に生起できるのはなぜか。
- b. 非動作者名詞句が主語を担う文は、単文より複文が好まれるのはなぜか。

(8) 提案:

a. 動作性動詞は事象叙述述語の機能も属性叙述述語の機能も持っている。事象叙述とは時間の流れにそって展開する出来事を描写するということであり、属性叙述とはモノの「時間の流れを超越した」恒常的性質を描写するということである。

○動作動詞における事象叙述の概念構造: [EVENT(x) ACT ON (y)]

○動作動詞における属性叙述の概念構造: [PROPERTY (y) BE AT (z)]

- b. 属性叙述には、対象の役割を描写する機能と対象の特徴を描写する機能が含まれる。
○役割描写：人の分業やモノの用途を描写する。
○特徴描写：人の嗜好・習慣やモノの特異性を描写する。
- c. 非動作者主語文は、動作動詞が道具名詞句や場所名詞句の「役割」を描写するという構文である。

○属性に関する従来の研究

cf. 佐久間(1941), 三上(1953), Carson, Gregory (1980), 益岡(1987,2004, 2008),
Kratzer, Angelica(1995), 影山(2004, 2006, 2008, 2009), 江口(2008), 呉人(2010)

2. アスペクト標識の可能性

アスペクトは、事象が時間の流れにそって変化するそれぞれの局面を表す標識システムを指す。太郎が歩くという動詞事象においては、時間の流れにそって「未然→進行→完了」のような局面が考えられる。中国語の動作性動詞の場合、未然是「要(yao)」、進行は「在(zai)」、完了は「了(-le)」でそれぞれ表示される。

(9) 「時間の流れを超越した性質」による予想

アスペクト標識は事象叙述構文に生起するが、属性叙述構文には生起しない。

(10) 属性叙述構文

- a. 美国人 吃 面包, 日本人 吃 米饭。

American eat bread Japanese eat rice

事象読み：アメリカ人はパンを食べ、日本人はご飯を食べる。

属性読み：アメリカ人はパンを食べる(もので)、日本人はご飯を食べる(ものだ)。

- b. 这把 菜刀 切 牛肉, 那把 菜刀 切 猪肉。

this-CF knife cut beef that-CL knife cut pork

事象読み：×

属性読み：この包丁は牛肉を切る(もので)、あの包丁は豚肉を切る(ものだ)。

- c. 这个 房间 画 画儿, 那个 房间 锻炼 身体。

this-CL room drew picture that-CL room train body

事象読み：×

属性読み：この部屋は絵を描く(ところで)、あの部屋は体を鍛える(ところだ)。

(11) 動作者主語の場合

- a. 美国人 要 吃 面包, 日本人 要 吃 米饭。

American will eat bread Japanese will eat rice

事象読み：アメリカ人はパンを食べようとしていて、
日本人はご飯を食べようとしている。

属性読み：×

- b. 美国人 在 吃 面包, 日本人 在 吃 米饭。

American PROG. eat bread Japanese PROG. eat rice

事象読み：アメリカ人はパンを食べていて、日本人はご飯を食べている。

属性読み：×

- c. 美国人 吃-了 面包, 日本人 吃了 米饭。

American eat-PF. bread Japanese eat-PF rice

事象読み：アメリカ人はパンを食べ、日本人はご飯を食べた。

属性読み：×

(12) 道具主語の場合

- a. *这把 菜刀 要 切 牛肉, 那把 菜刀 要 切 猪肉。

this-CL knife will cut beef that-CL knife will cut pork

事象読み：この包丁は牛肉を切るだろうし、あの包丁は豚肉を切るだろう。

- b. *这把 菜刀 在 切 牛肉, 那把 菜刀 在 切 猪肉。

this-CL knife PROG. cut beef that-CL knife PROG. cut pork

事象読み：この包丁は牛肉を切っているし、あの包丁は豚肉を切っている。

- c. *这把 菜刀 切了 牛肉, 那把 菜刀 切了 猪肉。ⁱ

this-CL knife cut-PF beef that-CL knife cut-PF pork

事象読み：この包丁は牛肉を切ったし、あの包丁は豚肉を切った。

(13) 場所主語の場合

- a. *这个 房间 要 画 画儿, 那个 房间 要 锻炼 身体。

this-CL room will draw picture that-CL room will train body

事象読み：この部屋は絵を描くだろうし、あの部屋は体を鍛えるだろう。

- b. *这个 房间 在 画 画儿, 那个 房间 在 锻炼 身体。

this-CL room PROG. draw picture that-CL room PROG. train body

事象読み：この部屋は絵を描いているし、あの部屋は体を鍛えている。

- c. *这个 房间 画了 画儿, 那个 房间 锻炼了 身体。

this-CL room draw-PF picture that-CL room train-PF body

事象読み：この部屋は絵を描いたし、あの部屋は体を鍛えた。

3. 目的語名詞句の量化可能性

周知のとおり、動作事象の特徴の一つとして事象の展開に終結点が明確でないことが取り上げられる。しかし、目的語名詞句の量化は動作事象の終結点を明確にする役割を果た

している。したがって、中国語の完了標識「le1」は常に量化目的語名詞句と生起する。

(14) 目的語量化と完了標識の相関関係

- a. ?张三 学了 汉语。

Zhangsan learn-PF Chinese

‘張三是中国語を学んだ。’

- b. 张三 学了 一年 的 汉语。

Zhangsan learn-PF one year DE Chinese

‘張三是中国語を一年間学んだ。’

一方、(8)の提案によれば、属性叙述構文は、時間の流れを超越した性質を持っているので boundedness を表示する量化目的語名詞句とクラッシュする。

(15) 「時間の流れを超越した」性質に基づく予測：

目的語名詞句の量化は属性叙述構文には適用されない。

(16) 動作者主語の場合

- a. 美国人 吃 面包, 日本人 吃 米饭。

American eat bread Japanese eat rice

事象読み：アメリカ人はパンを食べ、日本人はご飯を食べる。

属性読み：アメリカ人はパンを食べる(もので)、日本人はご飯を食べる(ものだ)。

- b. 美国人 吃 一片 面包, 日本人 吃 一碗 米饭。

American eat one-CL bread Japanese eat one-CL rice

事象読み：アメリカ人は一切れのパンを食べ、日本人は一杯のご飯を食べる。

属性読み：×

(17) 道具主語の場合

- a. 这 把 菜刀 切 牛肉, 那 把 菜刀 切 猪肉。

this-CL knife cut beef that-CL knife cut pork

属性読み：この包丁は牛肉を切る(もので)、その包丁は豚肉を切る(ものだ)。

- b. *这 把 菜刀 切 一块 牛肉, 那 把 菜刀 切 一块 猪肉。

this-CL knife cut one-CL beef that-CL knife cut one-CL pork

‘この包丁は牛肉を一切れ切り、その包丁は豚肉を一切れ切る。’

(18) 場所主語の場合

- a. 这个 房间 睡 觉, 那个 房间 吃 饭。

this-CL room sleep sleep that-CL room eat food

属性読み：この部屋は寝る(ところで)、あの部屋は食事をとる(ところだ)。

b. *这个 房间 睡 一觉, 那个 房间 吃 一碗 饭。

this-CL room sleep one-CL that-CL room eat one-CL food

‘この部屋はひと眠りし、あの部屋はご飯を一杯食べる。’

4. ヴォイス交替の可能性

中国語には、ある対象が動作者の影響で何らかの結果になることを表す構文がある。ここで、このような構文を影響文(effective construction)と呼ぶことにする。影響文と能動文との交替関係を広い意味でヴォイス交替と呼ぶことにする(木村 2008)。影響文は動作動詞の内項を際立たせる視点で動作事象を捉えなおすことを表す構文である。

(19) 受動文

対象主語は動作者から何らかの結果になるまで影響を受けるという受影性(affectivity)を表す構文である。

(20) 処置文

動作者はある対象物を取り立てて何らかの結果になるまで影響を及ぼすという与影性(effectivity)を表す構文である。

(21) 能動文

a. 张三 看了 这封 信 了。

Zhangsan read-PF this-CL letter SFP

‘張三はこの手紙を読んだ。’

b. 张三 看了 这张 桌子 了。

Zhangsan watch-PF this-CL table SFP

‘張三はこのテーブルを見た。’

(22) 受動化

a. 这封 信 被 张三 看了。

this-CL letter BEI Zhangsan read-PF

‘この手紙は張三に読まれた。’

b. ?这张 桌子 被 张三 看了。

this-CL table BEI Zhangsan watch-PF

‘このテーブルは張三に見られた。’

(23) 処置化

a. 张三 把 这封 信 看了。

Zhangsan BA this-CL letter read-PF

‘張三は手紙を読んできました。’

b. ?张三 把 这张 桌子 看了。

Zhangsan BA this-CL table watch-PF

‘張三はテーブルを見てしまった。’

(24) ヴォイス転換：能動文→影響文

a. 受動化：[S V_{ACTIVITY} O]→[O_i 被 S V ø_i]

b. 処置化：[S V_{ACTIVITY} O]→[S 把 O_i V ø_i]

中国語では、影響文へ交替可能な能動文には ACTIVITY という意味概念が必要である。しかし、本提案(8a)の属性叙述構文の概念構造で状態述語 BE が主要部であるため、ACTIVITY が抑制されることになっている。

(25) 属性叙述における [(z) BE AT [...]]による予測：

ヴォイス交替は属性叙述構文には生起しないと予測する。

(26) 動作者主語文の受動化・処置化

a. 美国人 吃 面包, 日本人 吃 米饭。

American eat bread Japanese eat rice

事象読み：アメリカ人はパンを食べ、日本人はご飯を食べる。

属性読み：アメリカ人はパンを食べる(もので)、日本人はご飯を食べる(ものだ)。

b. 面包 被 美国人 吃了, 米饭 被 日本人 吃了。

bread BEI American eat-PF rice BEI Japanese eat-PF

事象読み：パンはアメリカ人に食べられ、ご飯は日本人に食べられた。

属性読み：×

c. 美国人 把 面包 吃了, 日本人 把 米饭 吃了。

American BA bread eat-PF Japanese BA rice eat-PF

事象読み：アメリカ人はパンを食べてしまい、日本人はご飯を食べてしまった。

属性読み：×

(27) 道具主語文の受動化・処置化

a. 这把 菜刀 切 牛肉, 那把 菜刀 切 猪肉。

this-CL knife cut beef that-CL knife cut pork

属性読み：この包丁は牛肉を切る(もので)、あの包丁は豚肉を切る(ものだ)。

b. *牛肉 被 这把 菜刀 切了, 猪肉 被 那把 菜刀 切了。

beef BEI this-CL knife cut-PF pork BEI that-CL knife cut-PF

事象読み：牛肉はこの包丁によって切られ、豚肉はあの包丁によって切られた。

- c. *这把 菜刀 把 牛肉 切了, 那把 菜刀 把 猪肉 切了。

this-CL knife BA beef cut-PF that-CL knife BA pork cut-PF

事象読み：この包丁は牛肉を切ってしまい、あの包丁は豚肉を切ってしまった。

(28) 場所主語文の受動化・処置化

- a. 这个 房间 画 画儿, 那个 房间 锻炼 身体。

this-CL room drew picture that-CL room train body

属性読み：この部屋は絵を描く(ところで)、あの部屋は運動する(ところだ)。

- b. *画儿 被 这个 房间 画了, 身体 被 那个 房间 锻炼了。

picture BEI this-CL room drew-PF body BEI that-CL room train-PF

事象読み：絵はこの部屋によって描かれ、体はあの部屋によって鍛えられた。

- c. *这个 房间 把 画儿 画了, 那个 房间 把 身体 锻炼了。

this-CL room BA picture drew-PF that-CL room BA body train-PF

事象読み：この部屋は絵を描いてしまい、あの部屋は体を鍛えてしまった。

5. 非動作者主語名詞句の属性について

属性叙述構文における述語は、主語名詞句の属性を2つの側面から描写することが観察される。1つは主語名詞句が当該動作事象で果たす「役割」を描写することであり、もう1つは、動作性動詞が主語名詞句の特徴を描写することである。

(29) 動作者主語の属性叙述

- a. 张三 教 书, 李四 做 买卖。 →役割描写

Zhangsan teach book Lisi do business

‘張三は教育に従事し、李四は商売をやる。’

- b. 张三 吃 驴肉, 李四 吃 鹿肉。 →特徴描写

Zhangsan eat donkey meat Lisi eat deer meat

‘張三はロバ肉を食べ、李四は鹿肉を食べる。’

(30) 述語の名詞化：「VP 的」

- a. 张三 是 教 书 的, 李四 是 做 买卖 的。

Zhangsan COP. teach book DE Lisi COP. do business DE

‘張三は教育に従事する人で、李四は商売をやる人だ。’

- b. ?张三 是 吃 驴肉 的, 李四 是 吃 鹿肉 的。

Zhangsan COP. eat donkey meat DE Lisi COP. eat deer meat DE

‘張三はロバ肉を食べる人で、李四は鹿肉を食べる人だ。’

(31) 非動作者主語構文の属性叙述は：

動作動詞が斜格名詞句の「役割」を描写するということである。

(32) 非動作者主語

a. 这把 菜刀 切 菜, 那把 菜刀 切 肉。 →役割描写

this-CL knife cut vegetable that-CL knife cut meat

‘この包丁は野菜を切る(もので)、あの包丁は肉を切る(ものだ)。’

b. 这个 房间 睡 觉, 那个 房间 吃 饭。 →役割描写

this-CL room sleep sleep that-CL room eat food

‘この部屋は寝る(ところで)、あの部屋は食事をとる(ところだ)。’

(33) 根拠

a. 这把 刀 是 切 菜 的, 那把 刀 是 切 肉 的。

This-CL knife COP. cut vegetable DE that-CL knife COP. cut meat DE

‘この包丁は野菜を切るもので、あの包丁は肉を切るものだ。’

b. 这个 房间 是 睡 觉 的, 那个 房间 是 吃 饭 的。

this-CL room COP. sleep sleep DE that-CL room COP. eat food DE

‘この部屋は寝るところで、あの部屋は食事をとるところだ。’

(34) 意味役割を持たない名詞句の属性叙述

a. 这把 菜刀 生 锈, 那把 菜刀 不 生 锈。 →特徴描写

This-CL knife grow rust that-CL knife not grow rust

‘この包丁は錆びるが、あの包丁は錆びない。’

b. 这个 房间 漏 雨, 那个 房间 透 风。 →特徴描写

this-CL room leak rain that-CL room leak wind

‘この部屋は雨漏りし、あの部屋はすきま風が吹く。’

(35) 特徴描写

a. ?这把 菜刀 是 生 锈 的, 那把 菜刀 是 不 生 锈 的。

This-CL knife COP. grow rust DE that-CL knife COP. not grow rust DE

‘この包丁は錆びるもので、その包丁は錆びないものだ。’

b. ?这个 房间 是 漏 雨 的, 那个 房间 是 透 风 的。

this-CL room COP. leak rain DE that-CL room COP. leak wind DE

‘この部屋は雨漏りするところで、あの部屋はすきま風が吹くところだ。’

7. 結論と展望

(36) 動作動詞の叙述機能

○動作動詞における事象叙述：[(x) ACT ON (y)]

○動作動詞における属性叙述：[(y) BE AT (z)]

(37) 非動作主主語構文の一般化

非動作主主語構文は、動作動詞が斜格名詞句の「役割」を描写する構文である。

(38) 複文条件への回答

同じ動作動詞は事象叙述と属性叙述の2つの叙述機能がある。事象叙述の意味的特徴は基本的に「項+述語」の関係であり、属性叙述の意味的特徴は「主題+解説」という関係である(益岡 2008, 影山 2009)。この2つの意味的特徴は統語的にどのように表示されるのかが注目される。中国語には主題マーカーがないため、属性叙述の主題は対比文によって表示される。

(39) 今後の課題

動作動詞と「过(経験相)」共起する場合、道具主語や場所主語が生起するのはなぜか。

(40) a. 这把菜刀切过猪肉。

this-CL knife cut-EX. pork

‘この包丁は豚肉を切ったことがある。’

b. 这个房间曾经召开过重要会议。

this-CL room previously hold-EX. important meeting

‘この部屋はかつて重要な会議を開いたことがある。’

間接的属性叙述、すなわち一時の経験描写を通して恒常的な属性を表す構文であろう。(40a)はこの包丁が「汚れる」という恒常な属性を持ち、(40b)はこの部屋が「貴重」という属性を持つということを表す。

参考文献

江口清子(2008) 「事象叙述述語による属性叙述」 益岡隆志(編)『叙述類型論』くろしお出版, 93-114.

Carson, Gregory. 1980. *Reference to Kinds in English*. New York: Garland.

Dowty, David. 1979. *Word meaning and Montague grammar*. Dordrecht: Reidel.

Jackendoff, Ray. 1990. *Semantic Structures*. Cambridge, Mass.: MIT Press.

影山太郎. 1993. 『文法と語形成』. 東京: ひつじ書房.

影山太郎. 1996. 『動詞意味論』. 東京: くろしお出版.

影山太郎. 2004. 「軽動詞文としての『青い目をしている』構文」『日本語文法』4(1):22-37.

Kageyama, Taro. 2006. "Property Description as a Voice Phenomenon" in Tasaku

Tsunoda and Taro Kageyama (eds.) *Voice and Grammatical Relations* (Amsterdam: John Benjamins) 85-114

- 影山太郎. 2008. 「属性叙述と語形成」 益岡隆志(編)『叙述類型論』くろしお出版, 21-43.
- 影山太郎. 2009. 「言語の構造制約と叙述機能」 『言語研究』 No. 136. pp. 1-34.
- 木村英樹. 2008. 「北京語授与動詞“給”の文法化—<授与>と<結果>と<使役>の意味的連携—」 生越直樹・木村英樹・鷲尾龍一(編)『ヴォイスの対照研究—東アジア諸言語からの視点』くろしお出版, 93-107.
- Kratzer, Angelica. 1995. Stage-level and individual-level predicates. In: Gregory Carson and Francis Pelletier (eds.), *The Generic book*. Chicago: University of Chicago Press, 125-175.
- 呉人恵. 2010. 「コリヤーク語の属性叙述—主題化メカニズムを中心に—」 『言語研究』 138: 115-147.
- Levin, Beth and Malka Rappaport Hovav. 1995. *Unaccusativity*. Cambridge, Mass.: MIT Press.
- 益岡隆志. 1987. 『命題の文法—日本語文法序説』くろしお出版.
- 益岡隆志. 2004. 「日本語の主題—叙述の類型の観点から—」 益岡隆志(編)『主題の対象』くろしお出版, 3-17.
- 益岡隆志. 2008. 「叙述類型論に向けて」 益岡隆志(編)『叙述類型論』くろしお出版, 3-18.
- Pustejovsky, James. 1995. *The Generative Lexicon*. Cambridge, Mass.: MIT Press.
- Vendler, Zeno. 1967. *Linguistics in Philosophy*, Cornell University Press, Ithaca, New York.

i 「这把菜刀切了猪肉，所以不能用了。(この包丁は豚肉を切ったことがあるので、もう使えない。)」は、「経験」読みがあれば、文法的である。経験による属性叙述のメカニズムについては今後の課題にする。